

e

第4回理事会を開催

～今年度、広がりや深まりのある活動が展開～

この1年、皆様のご理解とご協力のおかげをもちまして、学校運営協議会の取組がさらに広がり深まりましたことに感謝申し上げます。

来年度も岩崎猛彦会長、島浩之副会長を中心に、新たに社会福祉協議会会長の西野信雄さんと新PTA会長の藤木壮二さんを理事に迎えて総勢15名の理事で、学校と地域を結び、松ヶ崎の子どもたちのため、さらに活動を進めてまいります。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



* 理事会で出た意見から抜粋して紹介します。

【学校運営協議会としての活動・取組の広がり】

- ・小大連携の拡大深化、夏の教育フォーラムでの発表、「松ヶ崎歴史遺産シンポジウム」の開催、左京区役所から「大学と地域の相互交流促進事業」の認証を受けた取組が左京区の広報誌「左京ボイス」に掲載等々、活動が広がり深まった1年だった。
- ・「外に学ぶ」風土を大切にしたい。活発に活動している他の学校運営協議会やその理事会に学びたい。その理事や理事会、運営協議会と交流してみてもどうか。

【つながりのある地域に】

- ・「お互いの顔が見える」「家族の絆が深い」「学校と地域との信頼関係がある」という地域・学校にしていくために、さらに力を注いでいきたい。
- ・学校運営協議会は、地域と学校をつなぐものであり、学校の応援団である。子どもの教育という一点でつながっている組織である。それを皆で考えることで、町づくりにもつながっていく。住民と住民の「交流の場」としても小学校の意義は大きい。
- ・見守り活動をしていて感じるのは、あいさつをする子どもが増えてきたことである。
- ・地域アンケートから、松ヶ崎地域の文化や景観に対する見方には、30～40代と高齢者の間の世代に溝があるように思う。そこをどうするかである。

- ・あいさつから付き合いが始まる。親の世代にも言えることである。互いに気持ちのよいあいさつを望みたい。あいさつ運動が、松ヶ崎の住みよい町づくりにより効果を生む。
- ・地域アンケートやシンポジウムは、地域を考えるよい機会になった。地域理解や交流を進める視点からも、学校運営協議会の取組は有意義だった。発展を願い、力を注いでいきたい。

【高齢者にやさしい町づくり】

- ・高齢者に地域とどうかかわってもらえるか。地域が高齢者をどう見守るか。高齢者に対する姿勢が大切である。住みよい町というのは、高齢者に対してやさしい町ではないだろうか。

【学校アンケート（評価）について】

- ・松ヶ崎小学校では、職員の研究や研修が活発に行われ、自己研鑽に努めるなど、学校運営のマネジメントがよくできている。
- ・今年度の学校評価は、重要度と達成度という指標を使って、コンパクトになっており、また、大変わかりやすい。今後も、わかりやすく省力化した取組を進めることが大切である。
- ・集計作業の効率化などを進め、教職員が子どもにかかわる時間を増やしてほしい。
- ・学校の中で子どもの中で何か起これば、顔を合わせ、心と心を合わせて対応してほしい。まず個別に対応し、その後に、子ども同志や集団の中で解決してほしい。



～北野正彦さん，岩崎皓さんが子どもたちに語る～

3年生の「総合的な学習の時間」の中の「地域学習」でゲストティーチャーを務められました。北野さんには学校に来ていただき「妙法の送り火」について、岩崎さんにはお宅に行かせていただき、「昔の農家の様子や昔の道具の名前や使い方」についての授業をしていただきました。

北野さんは、妙法の送り火の歴史や現在の様子、伝統を守り継承していく大切さと苦労などを語られました。岩崎さんは、自宅に保存してあるたくさんの昔の道具について、使っていた頃の様子や使い方などを話されました。岩崎さんのお自宅には、昔の道具が見やすいように並べて保存されています。また、おくどさんや井戸などもそのまま保存してあります。

どちらの授業でも、子どもたちはたくさんの質問を出し、熱心に話を聞き、しっかりメモするなど、積極的に学習に取り組んでいました。これからも、地域の方から直接学ぶ機会をたくさん作ってほしいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。